

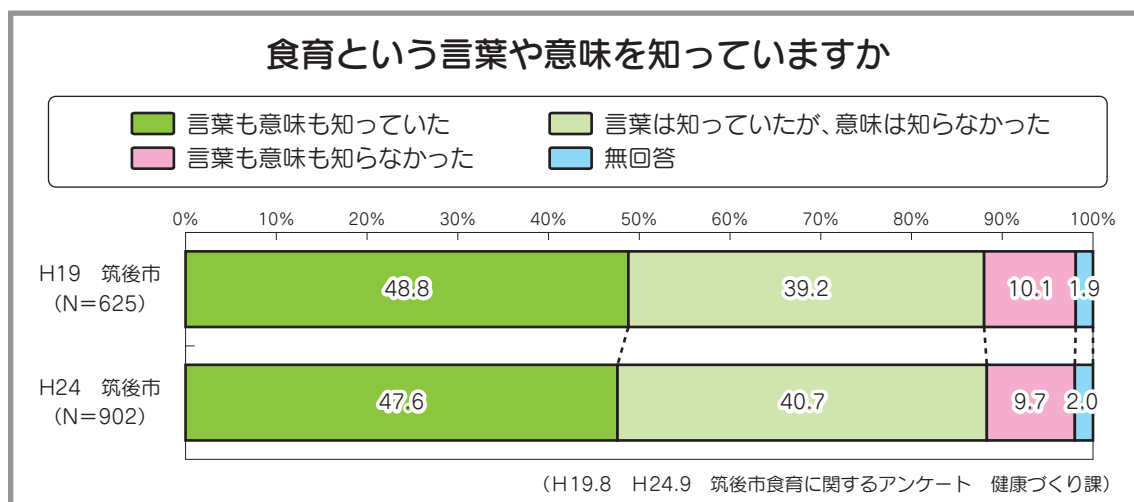
II 食をめぐる状況の変化

1 筑後市食育に関するアンケート結果

平成24年9月に市内在住の20歳以上の市民2,000人を対象に、「筑後市食育に関するアンケート」を実施しました。有効回答数は902人で、このアンケート結果からみた、第1次の食育推進計画の進捗状況については、次のとおりです。

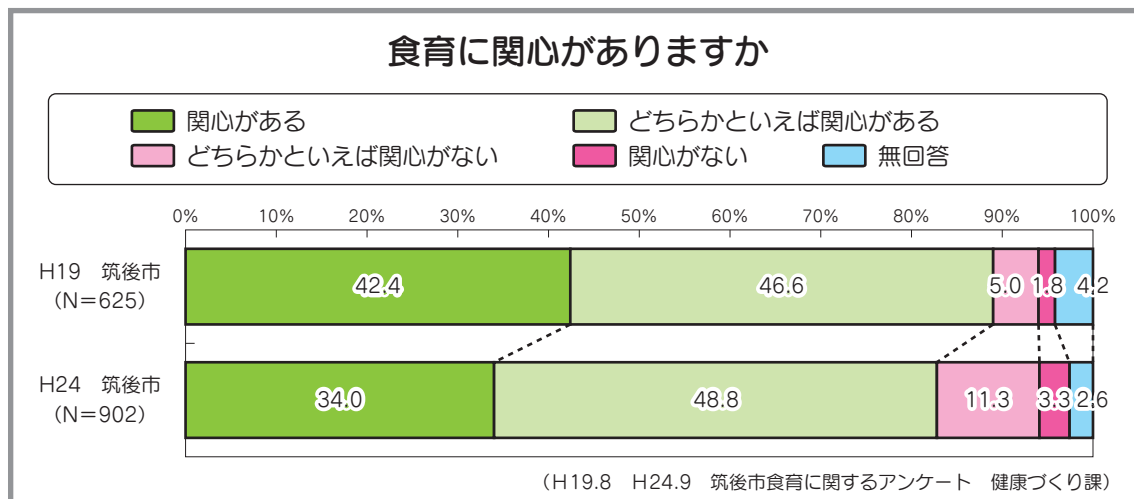
(1) 食育に関する意識について

①食育の認知



食育について「言葉も意味も知っていた」市民の割合は、前回調査と比較すると1.2ポイント減少して47.6%となり、「言葉も意味も知らなかった」市民の割合は、0.4ポイント減少して9.7%となっています。全体としてみれば、食育という言葉を知っている市民は微増となっているものの、食育の意味を知っている市民は微減となっています。

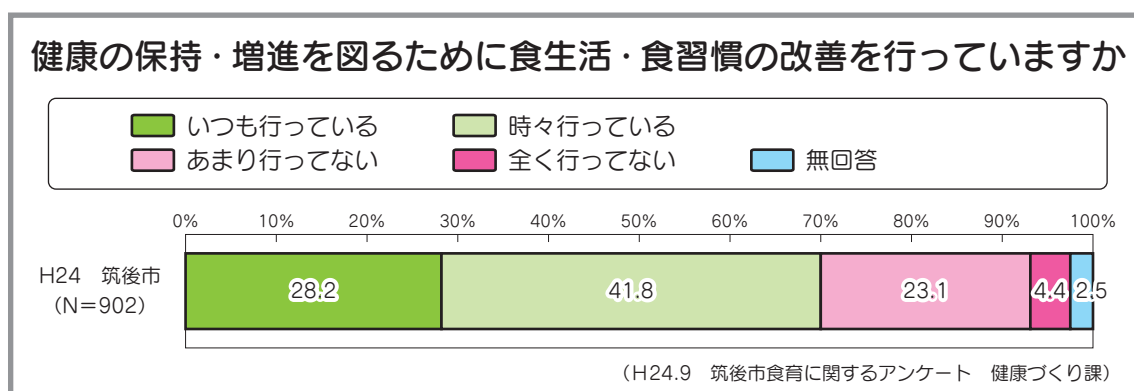
②食育への関心



食育への関心度については、「関心がある」・「どちらかといえば関心がある」を合わせると“関心がある”人は、前回調査と比較し、6.2ポイント減少して82.8%となっています。特に「関心がある」と答えた人は8.4ポイント減少しており、市民の食育への関心の低下がみられます。今回の調査で、食育に関心がある理由としては「子どもの心身の健全な発達」「食生活の乱れ」「生活習慣病の増加」等が上位に挙げられています。一方、関心のない理由としては、「食事や食生活に関心はあるが他のことで忙しい」という回答が半数近くを占めています。

(2) 健康の保持・増進を図るために

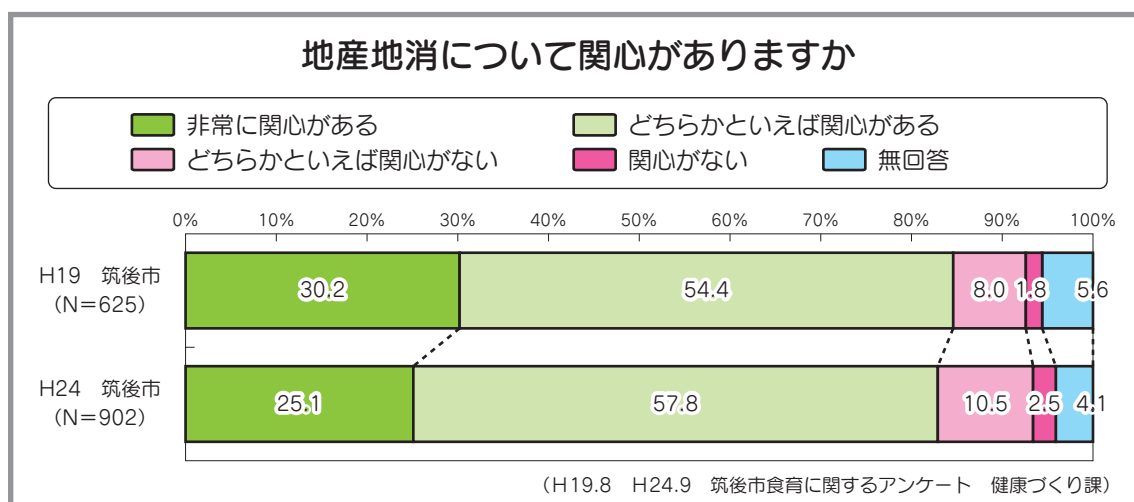
①食生活・食習慣の改善



食生活・食習慣の改善については、「いつも行っている」・「時々行っている」を合わせると70.0%となっています。前回調査とは質問の聞き方が違うので単純比較はできませんが、前回調査では、「健全な食生活を行うために食育に関する何らかの活動や行動をしていますか」という10の選択肢の中から3つを選ぶ質問で「食生活・食習慣の改善」を選択したのは56.6%となっており、食を通じた健康の保持・増進に対して、市民の関心が高まっているといえます。

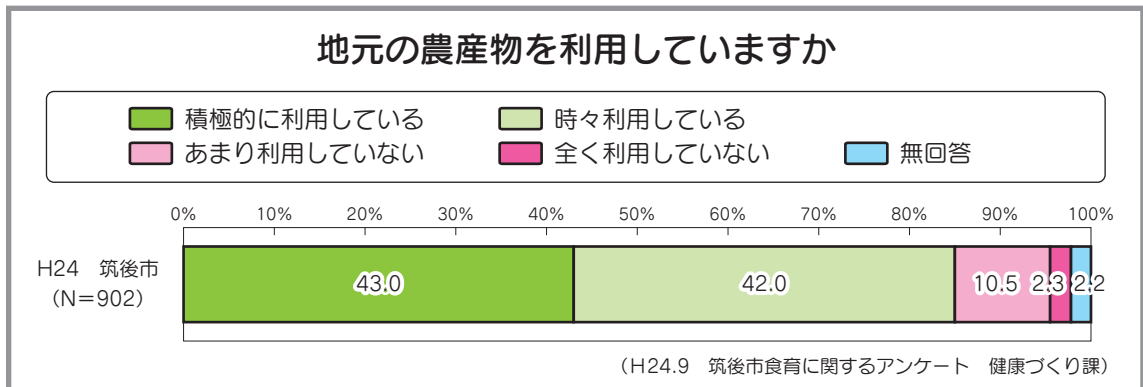
(3) 地産地消について

①地産地消への関心



地産地消への関心度については、「非常に関心がある」・「どちらかといえば関心がある」を合わせると“関心がある”人は、前回調査と比較し、1.7ポイント減少して82.9%となっています。特に「非常に関心がある」と答えた人は5.1ポイント減少しており、市民の地産地消への関心の低下が現われており、地産地消への関心を高める事業や周知活動が必要です。また今回の調査では、地産地消を推進するうえで必要なこととして「安全で新鮮なものの提供」が74.1%を占めています。

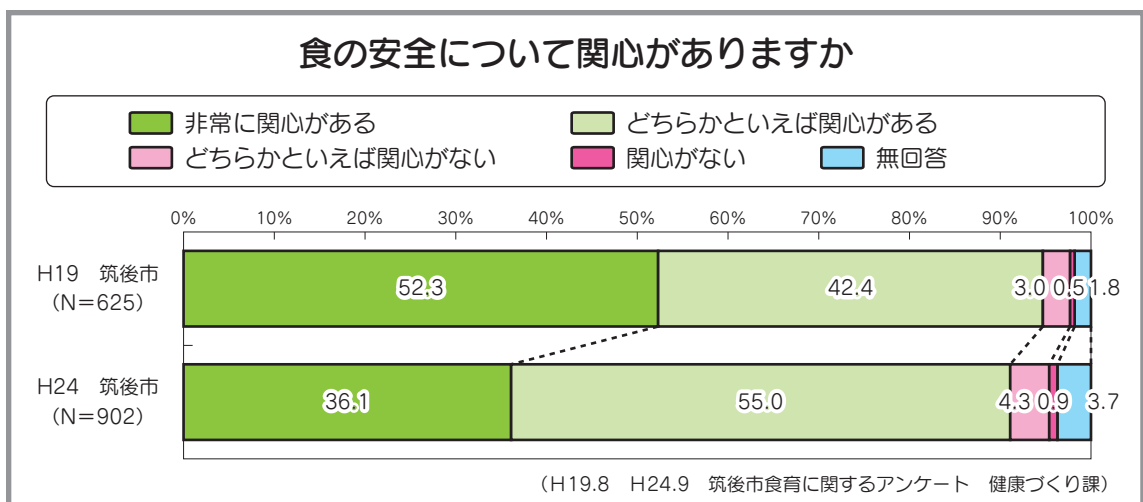
②地元の農産物の積極的利用



前回調査とは質問の聞き方が違うので単純比較はできませんが、前回調査では「健全な食生活を行うために食育に関する何らかの活動や行動をしていますか」という10の選択肢の中から3つを選ぶ質問で「地元の農産物の積極的利用」を選択したのは53.4%となっています。今回の調査では、地元の農産物の利用については「積極的に利用している」人が43.0%となっており、「時々利用している」人とあわせると85.0%の人が地元農産物を利用しているという結果になっています。

(4) 食の安全性について

①食の安全



食の安全への関心度については、「非常に関心がある」・「どちらかといえば関心がある」を合わせると“関心がある”人は、前回調査と比較し、3.6ポイント減少して91.1%となっています。特に「非常に関心がある」と答えた人は16.2ポイント減少しており、市民の食の安全に対する関心の低下がみられます。前回調査時点では、牛肉偽装問題等の食品表示偽装事件が多発しており、食の安全に対して、国民全体の関心が高い時期であったということが要因の一つと考えられます。

2 健康の状況

(1) 特定健康診査の受診状況

	20年度	21年度	22年度	23年度
受診対象者数	7,934人	7,940人	7,866人	7,997人
受診者数	2,428人	2,395人	2,613人	2,852人
受診率	30.6%	30.2%	33.2%	35.7%
メタボ予備群該当率	10.5%	10.4%	10.3%	10.2%
メタボ該当率	17.1%	15.1%	14.0%	14.6%

(国民健康保険に加入している40歳～74歳の市民)

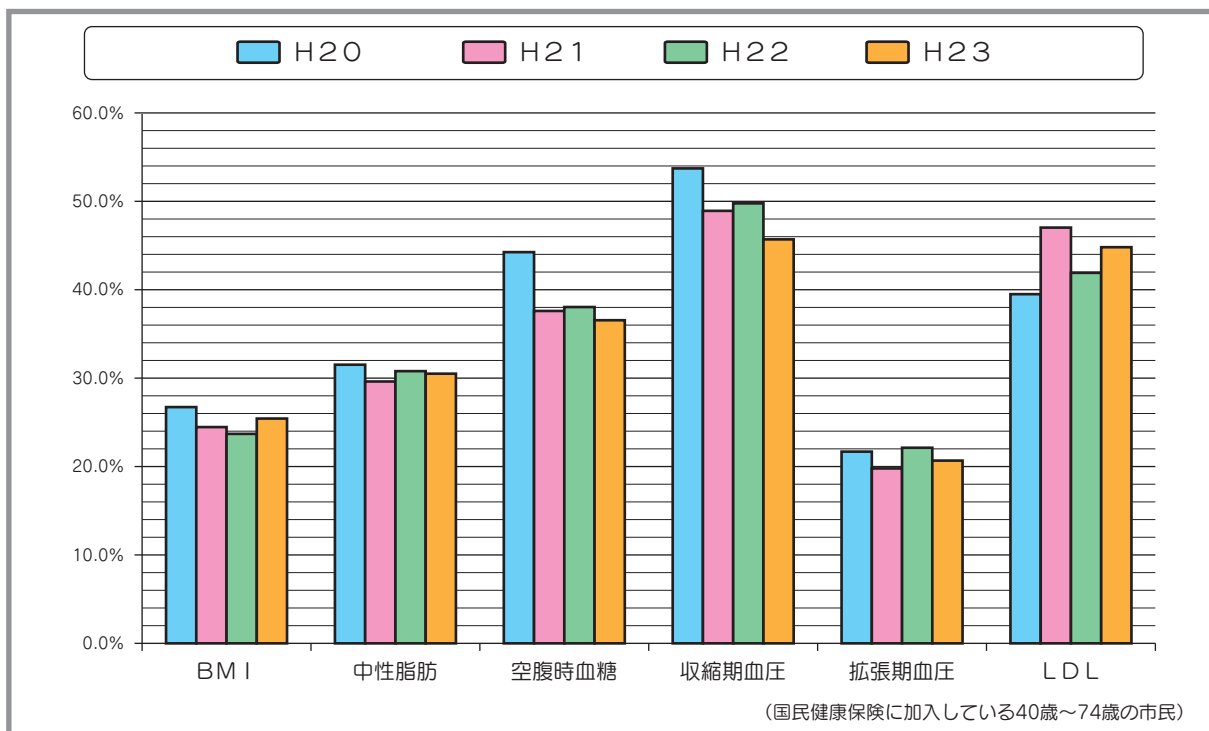
食生活の変化や運動不足などから、生活習慣病である心臓病や脳卒中、糖尿病などが増えています。日本人の死亡原因の3割をこれらの生活習慣病（がんを除く）が占めています。生活習慣病の発症には、肥満とそこから派生するメタボリックシンドロームが関係していることが多く、この状態が続くと自覚症状がなくても動脈硬化が急速に進んで血管に異常が生じ、心臓病や脳卒中等の発症リスクが高くなります。そこで、生活習慣病の予防と疾病を早期に発見し治療につなげるため、平成20年度から特定健康診査を実施しています。

筑後市でも、国民健康保険に加入している40歳から74歳までの市民を対象として特定健康診査を実施しており、開始当初より受診者数・受診率ともに伸びています。また、メタボ予備群該当率は横ばいですが、メタボ該当率は減少しています。

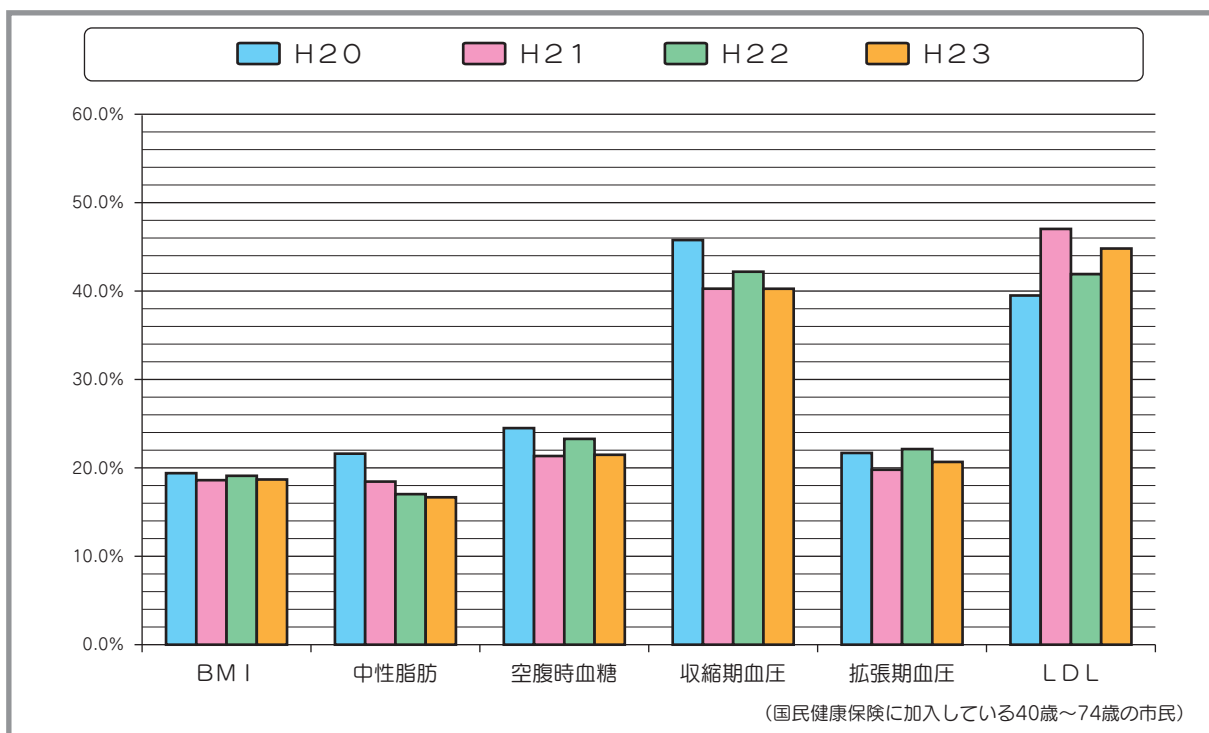
健診の結果、メタボリックシンドローム、または予備群と診断された方たちに特定保健指導を行い、バランスのとれた食生活などの生活習慣の改善を指導することにより、病気発症リスクの低減を図っています。

(2) 特定健康診査有所見者率の状況

【男性】



【女性】



中性脂肪については、男性の有所見者率が横ばいであるのに対して、女性の有所見者率は減少しています。また、男女ともにLDLの有所見者率は増加しています。

LDL以外は、男性の有所見率が高く、メタボリックシンドロームに起因する心臓病や脳卒中等の発症リスクは男性が高いと言えます。

(3) 特定健康診査受診者に占める生活習慣病の服薬者数

【平成22年度】

	受診者数	高血圧	脂質異常	糖尿病
福岡県	213,854人	60,994人 28.5%	37,676人 17.6%	11,743人 5.5%
筑後市	2,613人	738人 28.2%	490人 18.8%	134人 5.1%

(国民健康保険に加入している40歳～74歳の市民)

特定健康診査受診者の中で、3割以上の方が生活習慣病の治療を受けていることがわかります。また県と同じく、治療の割合は、高血圧が一番高くなっています。

～用語説明～

有所見：要治療や要精密検査など、正常ではないこと。

B M I：肥満の判定に必要な体格指数で25以上が肥満に該当します。

$$B M I = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$$

中性脂肪：150mg/dl以上で有所見となります。

空腹時血糖：100mg/dl以上で有所見となります。

収縮期血圧：130mmHg以上で有所見となります。

拡張期血圧：85mmHg以上で有所見となります。

L D L：いわゆる悪玉コレステロールであり、120mg/dl以上で有所見となります。

※メタリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

内臓脂肪型肥満（腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上）で高血圧・高血糖・脂質異常（高脂血症）のうち2つ以上が該当する場合があります。